NIHU当代中国地区研究基地联合项目
第六届国际学术会议

NIHU現代中国地域研究拠点連携プログラム
第6回国際シンポジウム

人民共和国史
―今どこまで解明されるのか

人民共和国史―历史研究前沿

2013年
12月7日(土) 13:30～17:30 京都大学時計台記念館 百周年記念ホール

▶第一部 講演会

久保 亨（信州大学教授）
「1950年代の中国経済と日中関係」

楊 奎松（華東師範大学教授）
「20世紀中国知識人の政治選択」

▶第二部 パネルディスカッション

コメント：
服部龍二（中央大学教授）
江田憲治（京都大学教授）
総合司会：
石川禎浩（京都大学教授）

使用言語：日本語・中国語（日中同時通訳あり）
参加費無料・事前予約不要

主催｜人間文化研究機構（NIHU）現代中国地域研究拠点連携プログラム
共催｜京都大学人文科学研究所 http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~rcmcc/index.htm
お問合せ先｜ Tel. 075-753-7091（京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター）
e-mail: genchu@zinbun.kyoto-u.ac.jp

人間文化研究機構（NIHU）現代中国地域研究 Contemporary Chinese Area Studies
京都大学人文科学研究所 Institute for Research in Humanities, Kyoto University

NIHU当代中国地区研究基地联合项目 第六届国际学术会议

人民共和国史——历史研究前沿

人民共和国史
——今どこまで解明されるのか

60年を超える中華人民共和国の歩みは、多くの謎をはらみながらも、
「当代史」としてすでに歴史研究の対象になっています。
NIHU（人間文化研究機構）の推進する現代中国地域研究の一環として、
今回は日中双方の第一線の現代史研究者によるシンポジウムを開催します。
中国側の代表は、官製の歴史観からの自立を目指す華東師範大学（上海）の中国当代史研究センターです。
精力的な史料発掘と独自の研究視点に支えられた同センターの研究者とともに、
激動の人民共和国の歴史が今どこまで解明されているのか、その最先端の成果を示すとともに、
残された課題解明への展望を探ります。
日本語・中国語の同時通訳がつきますので、どなたでも気軽にお越しください。

＊シンポジウムをはさんで、12月7-8日に中国語による専門的なワークショップ「1950年代の中国」も開催します（事前申込み制）。
詳しくは、http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~rcmcc/index.htm をご覧下さい。

久保　亨（くぼ・とおる）

信州大学人文学部教授。専門は中国近現代経済史。主な著書に、『戦間期中国〈自立への模索〉：関税通貨政策と経済発展』（東京大学出版会、1999年）、『現代中国の歴史：両岸三地100年のあゆみ』（共著、東京大学出版会、2008年）、『社会主義への挑戦 1945-1971 シリーズ中国近現代史④』（岩波新書、2011年）、『近代中国を生きた日系企業』（共著、大阪大学出版会、2011年）、『中国経済史入門』（編著、東京大学出版会、2012年）など。

楊　奎松（よう・けいしょう／ Yang Kuisong）

華東師範大学（上海）歴史系教授。中国における中共党史、当代史研究の第一人者で、歴史学界のカリスマ的存在。主な著作に、『西安事変新探—張学良与中共関係之謎』（江蘇人民出版社、2006年）、『毛沢東与莫斯科的恩恩怨怨』（江西人民出版社、2008年）などがあり、新史料に基づいて中国現代史の謎を次々に解明している。昨年、その一連の主著が著作集『革命』（全4巻、広西師範大学出版社）にまとめられ、大きな反響を呼んでいる。

服部　龍二（はっとり・りゅうじ）

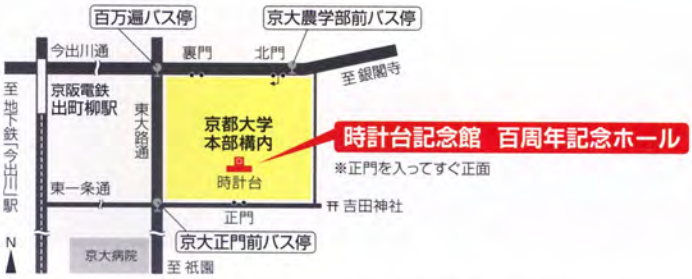
中央大学総合政策学部教授。専門は日本政治外交史、東アジア国際政治史。主な著書に、『東アジア国際環境の変動と日本外交 1918-1931』（有斐閣、2001年）、『日中歴史認識—「田中上奏文」をめぐる相剋 1927-2010』（東京大学出版会、2010年）、『日中国交正常化—田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』（中公新書、2011年）、『さかのぼり日本史 外交篇［2］昭和 "外交敗戦"の教訓—なぜ、日米開戦は避けられなかったのか』（NHK出版、2012年）など。

江田　憲治（えだ・けんじ）

京都大学大学院人間・環境学研究科教授。専門は中国現代史、中国共産党史。主な著書に、『五四時期の上海労働運動』（同朋舎出版、1992年）、『戦争と疫病—731部隊のもたらしたもの』（共著、本の友社、1997年）、『満鉄労働史の研究』（共編著、日本評論社、2002年）、『満鉄の調査と研究—その「神話」と実像』（共編著、青木書店、2008年）など。

石川　禎浩（いしかわ・よしひろ）

京都大学人文科学研究所教授。専門は中国現代史、中国共産党史。主な著書に、『中国共産党成立史』（岩波書店、2001年）、『初期コミンテルンと東アジア』（共編著、不二出版、2007年）、『中国社会主義文化の研究』（編著、京都大学人文科学研究所、2010年）、『革命とナショナリズム 1925-1945 シリーズ中国近現代史③』（岩波新書、2010年）など。



●市バス 17、203系統「百万遍」下車、裏門から南へ徒歩4分／31、201、206系統「京大正門前」下車、東へ徒歩3分
●京阪電車「出町柳」下車、東へ徒歩15分
＊駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。